山口県地球温暖化防止活動推進センター情報誌　Vol.21(2021年2月)

つなぐ

COOL CHOICE
未来のために、いま選ぼう。

センターからのお知らせ

●地球温暖化防止活動推進員全体研修会（報告会）について

例年では、研修会（報告会）を実施して今年度の活動実績について報告をさせて頂いて、さらには、次年度に向けての意見交換等をさせていただき活動の活性化を図っておりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症予防の為、対面での開催に替り書面での開催をいたしました。ご了承ください。

来年度以降も試行錯誤してまいりますので、皆様のお知恵をお貸しくださいませ。今後ともよろしくお願いいたします。

地域循環共生圏とは？

各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方です。そして、農山漁村も都市も活かす、我が国の地域の活力を最大限に発揮する構想であります。つまりは、人、物、お金等を地域内で循環させることで自らが自立でき、さらには、それぞれの地域同士でも融通して、社会全体を持続可能なかたちで、循環させていく事です。

『地域循環共生』」創造の重要なポイント

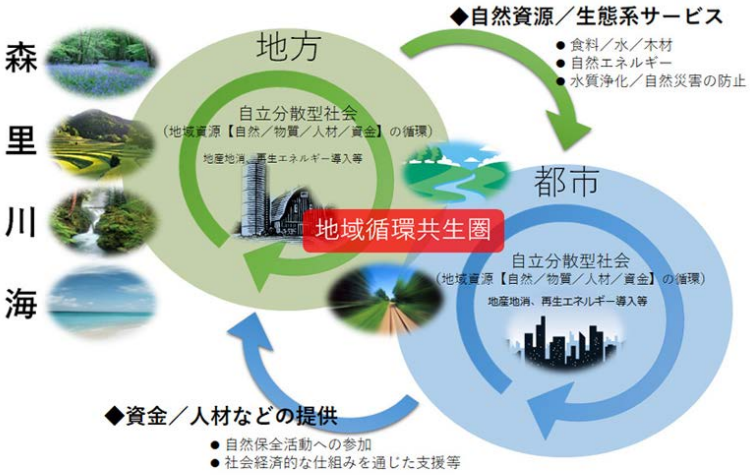
①地域課題と地域が求めている事を的確に捉える

②対応する地域資源の発見をして活用する

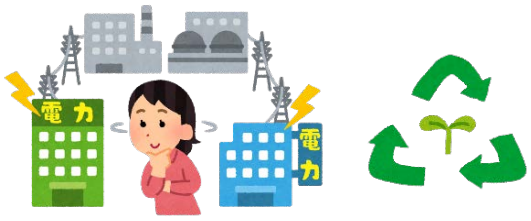
③上下中心に組織された、縦割りを超え、新たなパートナーシップを形成、近隣地域と補完し支えあい深化させる

④新たな価値を創造し、地域間の経済を活性化させ、地域経済循環を向上させる

以上のポイントを押さえて、都市と地方がお互いに支え合う関係を強固にすることで、複合化する環境・経済・社会の諸問題を同時に解決することができるのではないでしょうか。



地域循環共生圏とは　～地域が自立し、支え合う関係づくり～



電力の自由化によって、電気会社が選べるようになり、再エネを中心に発電を行う、近くの自治体が運営する事業者から電気を買うと、電気の脱炭素化と地域循環にもなります。

出典）環境省「地域循環共生圏の構築に向けて-日本初の脱炭素化・SDGs 構想-」

若者世代と地球温暖化防止推進員との意見交換会について

若者世代を巻き込んだ活動を見出し、一緒に普及啓発活動が出来る体制の構築を目指して温暖化の現状や課題について、若者世代がどのように考えているのか。またどうすれば関心を持ってもらえるのか。などについて、テーマに沿って意見交換を実施しました。

●日　時　2020 年 10 月 28 日（水）　10：00～12：00
●会　場　白石地域交流センター　3 階　講座室（山口市本町 1 丁目 1-25）
●参加者　ほっとさろん西門前　てとてと（5 名：子育て中のお母さん）
　　地球温暖化防止活動推進員　（4 名：樋口、和﨑、有竹、吉冨）
●主催者　山口県環境政策課　静村　山口県地球温暖化防止活動推進センター　田部、石川
●内　容・温暖化の現状と推進員の活動について説明
　　・ワークショップ
　　①若年層の情報発信サポーター制度の創設について
　　②環境アプリ（仮）について
　　・ワークショップのまとめ発表

①若年層の情報発信サポーター制度の創設について

Ｑ１　子育てをしながら、イベントに参加できそうですか？
託児施設、軽食、ゲーム、来場者プレゼント、キャラクターショー、など子供と一緒に楽しめる内容なら参加できそう。
Ｑ２　温暖化防止についての啓発・発信はできそうですか？
簡単な知識なら知人友人に教えられるが、ＳＮＳ等を使った発信は難しい。

Ｑ３-１　子育て中にやってみたいエコな取組、活動はありますか？
太陽光発電、ゴミの分別、食べ残しをしない、地産地消、衣料品の再利用、公共交通機関の利用、緑のカーテン、マイボトル、残り湯の再利用、フードバンクの活用、国産商品の購入、クールシェア、ウォームシェア施設の利用。
Ｑ３-２　実際に出来そうなことは？
１位　①冷暖房シェア施設②エコバック利用③衣料品のリサイクル
２位　①ゴミの分別②ごみの削減②無駄なものを買わない
３位　①国産、地産地消の商品を選ぶ②ＳＮＳでの情報収集（情報の収集は出来る）

Ｑ４　子育てをされている中で、推進員が行う環境イベントへの参加（サポート・手伝い）はどんな条件があれば、できそうですか？
託児施設がある、開催場所が家から近い、特典付き、拘束時間による。（短時間で帰宅時間が遅くならない程度）

Ｑ５　ＳＮＳの活用について

①メリット、デメリットは？

【メリット】気軽に活用でき情報収集にはよい、自分の好きなタイミングで見られる、一斉に多くの人に情報を見てもらえる。

【デメリット】情報が多すぎる、正しい情報かどうかを自身で判断する必要がある、得た情報に責任がもてない、入力に手間がかかる、個人情報の漏洩や拡散の恐怖、相手が見えない不安。

②SNS を使って、どのようなエコな取組を発信できると思いますか？
**　また、発信したほうがいいと思う内容は？**

見る人の目を引くような写真が必要、取組んでいる内容をおしゃれに発信、エコグッズの紹介、分別したゴミの行方、公共交通機関を使用するためにコミュニティバスの情報、簡単なエコ知識やエコテクニック。

②環境アプリ（仮）について

Ｑ１　環境アプリにあったらいいと思う内容は？
**　　※どのような内容だとインストールしたいと思いますか？**

クイズやゲームでポイントがたまる、貯めたポイントを商品や商品割引券などに変えられる、エコな取組などを紹介する世代交流の広場、環境問題のニュース、別団体とのコラボ、特別な特典、夏休みの自由研究のヒント、子供が主体的に情報や取り組みを発信できる場所、可愛いデザイン、公共交通機関と連携してバスの時刻表やマップを見ることができる、ＳＮＳなどに投稿して「いいね」の数でポイントが付与される、電気使用量など光熱費等のグラフ。

●まとめ

・若い世代も温暖化防止に対して興味をもっており、子育て中の方でも条件さえ整えれば活動に参加できる可能性がある。
・家庭の中で取り組めるエコ活動や親子で取組む活動には興味があり、SNS などを活用して情報収集をしているため、SNS の活用は有効である。
・若い世代の発想や発信力と推進員の知恵や取組を上手く巻き込むことで、新たな啓発活動が出来る。
・推進員では難しい事を若者世代で補えれば、もっと広い活動ができる。
・少しずつ参加してもらう事で、子供さんから手が離れた時に推進員になってもらえる可能性がある。
・興味を持ってもらう為には、何かしらのメリット（得をしたと思う事）がわかる仕掛けが必要。

令和２年版環境白書を読む会　山口県開催の実施について

環境省では、毎年「環境白書を読む会」を全国各地で開催しています。
今年度は、山口県での開催が決まり、令和２年度版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書（令和２年６月閣議決定）について、テーマやねらいなどを環境省担当者が解説しました。

●日　時：令和２年 11 月 26 日（木）13：30～15：30
●場　所：山口県総合保健会館　第１研修室
●テーマ：気候変動時代における私たちの役割

国内外で深刻な気象災害が多発し、地球温暖化で今後、気象災害のリスクが更に高まることが予測され、気候変動問題は『気候危機』として世界の主要課題となっています。

今後は「脱炭素社会づくり」が重要なカギを担っており、日本では 2050 年に温室効果ガス又は、二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を 206 自治体が表明しています。（28 都道府県、118 市、2 特別区、48 町、10 村（2021 年１月 13 日時点））※
さらに、脱炭素化を加速化するためには、「情報誌つなぐ vol.20」でお伝えした『カーボンフットプリント』の考え方が重要になっていきます。
私達一人一人が衣、食、住や働き方、移動方法などのライフスタイルの中から、より環境に負荷のない製品やサービスを選択していけるようにしていく必要があります。

※出典）環境省「地方公共団体における 2050 年二酸化炭素排出実質ゼロ表明の状況から抜粋」

詳しくは情報誌つなぐ
Vol.20 を読んでね

『カーボンフットプリント』とは？
商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量を把握するシステム

令和２年度「消費者力向上セミナー」の後援につて

山口県地域消費者団体連絡協議会主催のセミナーに山口県センターの職員がパネリストとして参加しました。

●日　時：令和２年 11 月 30 日（月）13:30～15:30
●場　所：アクティブ柳井会場、山口県婦人教育文化会館会場、萩市総合福祉センター会場
●テーマ：あなたの選択、世界を変える　～SDGs、エシカル消費の視点から～：

SDGs の 12 番目「つくる責任、つかう責任」から「つかう」という事は何を選びどのように消費するかを理解し、さらにはエシカル消費を意識して消費者としての行動に責任が持てる持続可能な取組を目指すために、３会場と東京をリモートで繋ぎ、ディスカッションを行いました。

発行：山口県地球温暖化防止活動推進センター
（公益財団法人山口県予防保健協会内）
〒753-0814　山口市吉敷下東三丁目１－１
TEL：083-933-0008 ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ「７」　FAX：083-923-5567
URL：http://www.yobou.or.jp/ycccahome

編集後記
今年は、良くも悪くも今までに経験したことのない年になりました。新しくチャレンジした事で得た経験を今後の活動に生かしていきたいと思っています。
皆様、今後もよろしくお願いいたします。　石川